

宇部市の保育実施計画を策定するための意見を聴く会報告書

日時：平成28年10月19日（水） 19時～20時30分

会場：宇部市役所 4階 第3委員会室

出席者：（意見発表者）公立保育園保育士・公立保育園保護者・宇部市子育てサークル保育士・宇部市子育てサークル利用者・相談支援専門員・学童保育支援員・ご近所福祉サロン代表（事務局）健康福祉部長・こども福祉課長・こども福祉課長補佐・係長

1 開会あいさつ

2 宇部市保育基本方針の概要について（事務局から説明）

3 意見発表

①地域における子育て支援の充実について

- ・保育の現場で、問題を抱えたときは連携できる場所が必要。10年・20年前に比べると横のつながりが希薄になったように感じる。
- ・ご近所福祉の活動を始めてから3年間で活動方法が変化。当初は、こちらから提供できることをいろいろ考えてやっていたが、今は子どもを見守る家庭のような居場所となっている。高齢者をもっと使うとよい。
- ・子育てサークルでは、保健センターの保健師や神原支援センター保育士と合同会議を実施したり、支援センター保育士が出張相談をするなど連携して、何れかがフォローしていけるようにしている。
- ・保育園、幼稚園や学童保育において、相談を受けている。必要な時にサポートできるシステムを作りたいと思う。
- ・山陽小野田市の児童館のように、各地域の歩いていける距離に支援場所があることは大切。

②質の高い保育サービスの提供について

- ・「サービス」という言葉は「やってもらう」という受け身の印象があり、保育士としては抵抗がある。「支援」という言葉には親も保育士も一緒に育つという意味があると考えている。
- ・保育園を建てた時から老朽化していくことはわかっているのに、改修計画もないのはおかしい。耐震化については、スピード感を持ってやってほしい。
- ・学童保育では、施設不足のため今年度当初待機児童が出た。現在は教室数も増えたが、過密で騒々しく、支援員が突発性難聴になることも。クールダウンが出来る部屋もなく、環境は悪い。
- ・保育の内容等の評価は、市が実施するべきと思う。

③充実した保育サービスの提供について

- ・一時保育等、特別保育を実施しているが、0歳児の利用が増加している。また、保護者のメンタル面でのリフレッシュが必要なケースでの利用が増加しているように感じる。一時保育は、在園児と同室で実施している状況。きちんとした場所と職員の確保が必要である。

④地域ごとの保育ニーズの把握と供給量の確保

- ・男性、女性ともに活躍する時代。人口が減少するからと、保育の供給量を減らすのは今やるべきではないと考える。

⑤効果的・効率的な事業展開

- ・宇部市子育てサークルは、毎日プログラムがあるのが良い。県内で他にはない取り組み。未就園児にとっては、心の拠り所となる場所。サークル等の情報を転入時などに提供することが大事。
- ・今日の会で初めて、様々な関係機関があることを知った。もっと情報提供が必要。大きな施設だけでなく、小さな場所が心の拠り所となる人もいる。

⑥その他

(計画全体について)

- ・公立保育園数の減、民営化が目的と思えてしまう。
- ・宇部市は、保育というものの位置づけが低いと感じる
- ・民間保育園の活性化を考えていない。企業努力でどうにかしろということに思える。
- ・ネガティブではなくポジティブな計画にしてほしい。宇部市は将来のためにお金を遣いますという言葉を入れてほしい。

(要望)

- ・子どもプラザもいいが、保育の基盤である幼稚園や保育園、学校の整備をしてほしい。
- ・地域活動をするリーダーを養成する必要がある。以前はリーダー養成講座があった。
- ・子どもプラザはなかなか建たない。屋内で遊べる施設があるとよい。ときわ公園や神原公園など既存施設を利用できないか。
- ・宇部市の公園は、遊具が少なく、荒れている。ときわ公園はきれいだが、地域の小さな公園も整備してほしい。
- ・公園に小さな子ども向けの遊具があるとよい。

(その他)

- ・保育現場の先生たちに、頑張りすぎないで欲しいと伝えたい。気になる子には、これまでの知識や経験で、対応されていると思うが、それでも対応できない場合は保育プラス他の何かが必要なのだと考え、専門家へ相談してほしい。子どもの育ちを、皆で考えていくことが大切。
- ・利用者である保護者自身の意識改革も必要と考える。
- ・多世代交流スペースを利用した人から、駐車場が近くにないので子ども連れて行くのは大変だと聞いた。やはり駐車場は必要。こういうロコミはすぐに広まる。

4 意見交換

- ・保育という基盤を崩していけない。保育環境が良ければ、転入者は増えていくと思う。
- ・例えば西岐波保育園を建て替える時は、学童保育や発達障害の相談ができる場所も併設してはどうか。
- ・高齢者支援では、地域支援チーム等、地域に拠点があるが、子どもに関する相談は市役所や専門機関に出向かなければならず、各地域に相談できる場所があればよいと思う。市の職員がすべてやるのではなく、専門家に委託するなどすれば人件費も安く済むと思う。
- ・本日、皆さんの話を聞いて、黒石校区に人が集まる理由は、生活に便利な地域だからというだけではないと改めて思った。黒石校区では、小学校・中学校が地域とともにやるという姿勢でいる。高齢者も入学準備の袋を作ったり、保育園も地域との交流に積極的。地域みんながまちづくりをしなければならないという風潮がある。

(事務局から)

- ・5つの基本方針を進めていくために、本日ご提言いただいた意見をできる限り実施計画に盛り込んでいきたい。